

2010年度国際交流基金賞受賞者 決定

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)は、1973年以来毎年、学術・芸術など文化活動を通じて、日本と海外の相互理解の促進に顕著な貢献のあった個人または団体に対し、「国際交流基金賞」を授賞しています。このたび2010年(平成22年)度の受賞者3名が決定しました。

国際交流基金賞 文化芸術交流部門 受賞者

佐藤忠男 Tadao SATO 映画評論家 (1930年生まれ 男性)【日本】

日本を代表する映画評論家であり、アジア映画研究の先駆者。モスクワ映画祭、モントリオール映画祭、アジア太平洋映画祭ほか、多くの国際映画祭などで審査員を務める。映画分野における国際交流に積極的に取り組み、特に紹介されることの少なかったアジア諸国の優れた作品に光を当て、日本のみならず世界の観客にアジア映画への関心を高める上で大きな役割を果たした。主な著作に、「私はなぜアジアの映画を見つづけるか」、「中国映画の100年」、「映画から見えてくるアジア」などがある。日本映画学校校長。

国際交流基金賞 日本語部門 受賞者

サヴィトリ・ヴィシュワナタン Savitri VISHWANATHAN

デリー大学前教授 (1934年生まれ 女性)【インド】

デリー大学において、日本語・日本史・日本政治の講義を長年担当。同大学の中国・日本研究学科長を務め、インドにおける日本研究及び、その基礎となる日本語教育をインドで根付かせ、後進の育成に大きく貢献した。また、日印間の首脳会議では補佐を務め、日印関係促進の賢人会議のメンバーも歴任した。島崎藤村『破戒』のヒンディー語及びタミル語の翻訳があるほか、日本の文化や政治に関する論文や記事を多数発表している。1967年内閣総理大臣賞受賞、1982年勲四等宝冠章受章。

国際交流基金賞 日本研究・知的交流部門 受賞者

ベン=アミー・シロニー Ben-Ami SHILLONY

ヘブライ大学名誉教授 (1937年生まれ 男性)【イスラエル】

イスラエルにおける日本研究の第一人者。ヘブライ大学の名誉教授であり、オックスフォード大学、ハーバード大学、東京大学などで講演や研究を行うなど、世界各国において、日本文化の理解促進と学術交流、そして日本研究の推進に大きく貢献した。ポーランドに生まれ、イスラエルに移住した経験を持ち、トルーマン平和研究所の所長にも就任。「ユダヤ人と日本人の不思議な関係」、「母なる天皇 - 女性的君主制の過去・現在・未来」など、多数の著作がある。2000年勲二等瑞宝章受章。

国際交流基金賞は、国際交流基金の主な事業分野である「文化芸術交流」、「海外における日本語教育」、「日本研究・知的交流」の領域で功績のあった団体、個人に授賞し、受賞者は天皇皇后両陛下の御接見を賜る予定です。

第一回の1973年には、ハーバード大学のセルジュ・エリセーエフ教授、国際文化会館、ジャパン・ソサエティ〔ニューヨーク〕、上智大学がそれぞれ受賞しています。

授賞式は、10月25日(月)18:30から、経団連会館にて行われます。
また、受賞者による記念講演会を10月下旬から実施する予定です。

本件に関するお問合せ、取材などのお申込みは下記までお願いいたします。

国際交流基金 情報センター 大野・田島
TEL:03-5369-6075 FAX:03-5369-6044 e-mail: kikinsho@jpf.go.jp

国際交流基金賞 広報代行 株式会社ブラップジャパン 永田^{みそのお}・御園生
TEL:03-3486-7991 FAX:03-3486-6871 e-mail: m-misonoh@prap.co.jp